白隠禅師坐禅和讃

衆生本来仏なり
水を離れて氷なく
衆生近きを知らずして
譬えば水の中に居て
長者の家の子となりて
六趣輪廻の因縁は
闇路に闇路を踏そへて
夫れ摩訶衍の禅定は
布施や持戒の諸波羅蜜
其品多き諸善行
一座の功をなす人も
悪趣いづくに有りぬべき
辱なくも此の法を
讃歎随喜する人は
いわんや自ら回向して
自性即ち無性にて
因果一如の門ひらけ
無相の相を相として
無念の念を念として
三昧無碍の空ひろく
此の時何をか求むべき
当所即ち蓮華国

水と氷の如くにて
衆生の外に仏なし
遠く求むるはかなさよ
渇を叫ぶが如くなり
貧里に迷うに異ならず
己が愚痴の闇路なり
いつか生死を離るべき
称歎するに余りあり
念仏懺悔修行等
皆この中に帰するなり
積みし無量の罪ほろぶ
浄土即ち遠からず
一たび耳にふるる時
福を得る事限りなし
直に自性を証すれば
すでに戯論を離れたり
無二無三の道直し
行くも帰るも余所ならず
うたうも舞うも法の声
四智円明の月さえん
寂滅現前する故に
此の身即ち仏なり